

公共事業事後評価調査

1 事業概要		整理番号	H22 - 1	
事業種別	農業農村整備事業	事業主体	青森県	
事業名	田園空間整備事業	管理主体	八戸市	
箇所名等 (市町村名)	島守盆地 (八戸市)	事業方法	国庫補助 県単独	
		財源・負担区分	国50% 県25% 市町村25% その他%	
事業の背景・必要性	八戸市南郷区島守地区の恵まれた地域資源を生かし、地域全体を屋根のない博物館(田園空間博物館)にみたて、豊かな自然、美しい景観、伝統文化を保存・整備することにより、魅力ある田園空間を創造・保全し、農村の活性化や都市との交流などを図るものである。			
主な事業内容(事業量)	コミュニティ施設 2棟 農業集落道 273m 歩行者専用遊歩道 821m 集落水辺環境 354m 集落農園 11,641㎡ など			
想定した事業効果	(金銭価値化が可能な効果)			
	- (その他の効果) (1) 地域コミュニティの維持・向上効果 (2) 景観・環境の保全効果 (3) 都市住民との交流の促進効果			
事業の実施経過	(事業着手) 平成10年度 (用地着手) 平成12年度 (工事着手) 平成13年度 (事業完了) 平成17年度			
公共事業評価の実施時期	事前評価時(- 年) [当初計画時]	再評価時(H15年)	事後評価時(H22年) [最終実績]	
事業期間(事業着手～事業完了)	H10 ~ H14	H10 ~ H17	H10 ~ H17	
総事業費	720 百万円	1,350 百万円	1,482 百万円	
計画変更の実施時期	第1回計画変更(H12年)	第2回計画変更(H15年)	第 回計画変更(年)	第 回計画変更(年)
事業期間(事業着手～事業完了)	H10 ~ H17	H10 ~ H17	~	~
総事業費	1,350 百万円	1,482 百万円	百万円	百万円
特記事項	(1) H15年度の再評価において「継続」とされ、附帯意見は以下のとおり。 「南郷村においては、施設のインシャルコスト(建設費用)とランニングコスト(維持管理費用)の負担と将来展望を明確にし、実効ある運営を行うこと。 また、県は整備された施設の管理・運営が将来にわたって適正に行われているかをモニタリングし、必要に応じて南郷村及び運営協議会に対して助言や適切な支援を行うこと。」 (2) 「島守館農園」整備の追加等により、H12に第1回計画変更を実施。 (3) 「散策の道古坊」の工法変更等により、H15に第2回計画変更を実施。			
(事業概要図)				

担当部課室名	農林水産部 農村整備課	電話番号	017 - 734 - 9555
		E - MAIL	noson @pref.aomori.lg.jp

2 事業完了後の状況

整理番号 H22 - 1

<p>社会経済情勢等の変化</p>	<p>(1) 平成15年11月に世増ダム(愛称:青葉湖)が完工し、本事業で整備した「水車小屋」や「散策の道古坊」などを活用して「青葉湖(世増ダム湖)ウォーク」が開催されており、事業の相乗効果が発揮されている。</p> <p>(2) 平成17年3月に旧南郷村が八戸市に編入され新八戸市が誕生し、地域間交流の促進が期待される。(平成22年5月の人口:236,995人)</p>																				
<p>費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>本地区は、事業内容が農村生活環境整備に係る施設であり、事業実施要綱において費用対効果が不要とされていたため、算定を行っていない。</p>																				
<p>事業効果の発現状況</p>	<p>(金銭価値化が可能な効果)</p> <p>-</p> <p>(その他の効果)</p> <p>事業実施後の効果において、【事業効果】に関するアンケート結果では、「効果はあった」と回答した人は68%(201人/295人)あった。</p> <p>(1) <u>地域コミュニティの維持・向上効果</u></p> <p>ア) 【事業効果】に関するアンケート結果では、(1)<u>地域コミュニティの維持・向上効果</u>に関連して「郷土に対する認識、知識などが深まった」、「地域住民との交流が図れた」、「子どもたちへの学習の場として役立った」のいずれかに回答した人は58%(171人/295人)あった。</p> <p>(2) <u>景観・環境の保全効果</u></p> <p>ア) 【事業効果】に関するアンケート結果では、(2) <u>景観・環境の保全効果</u>に関連して「地域の伝統的な景観の保全復元」、「地域の伝統文化の保存」、「生態系への保全」のいずれかの効果に回答した人は47%(139人/295人)あった。</p> <p>イ) 【環境変化】に関するアンケート結果では、「良くなった」「やや良くなった」と回答した人は、58%(174人/300人)あった。</p> <p style="text-align: center;">景観・環境の保全に係る整備内容(例)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 「萱葺き農家」の復元 「水車小屋」の復元 「ホタル水路」の整備 「湧水池」の整備 </p> <p>(3) <u>都市住民との交流の促進効果</u></p> <p>ア) 【事業効果】に関するアンケート結果では、「都市住民との交流」と回答した人は16%(47人/295人)であった。</p> <p>イ) 一方、本地区の窓口となる総合情報館の入場者数は、各年度とも計画年間利用者数36,100人を上回っている。</p> <p>ウ) また、サンプル調査によれば、このうち都市住民(八戸市南郷区以外)の入場者数は、全体の約8割と想定される。</p> <p style="text-align: center;">入場者数実績 単位:人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合情報館入場者数(総合案内室、展示スペース等)</td> <td>41,586</td> <td>36,989</td> <td>37,186</td> <td>計画年間利用人数:36,100人</td> </tr> <tr> <td>計画に対する利用率</td> <td>115.2%</td> <td>102.5%</td> <td>103.0%</td> <td>/36,100人</td> </tr> <tr> <td>のうち、都市住民(八戸市南郷区以外)の入場者数</td> <td>33,268</td> <td>29,591</td> <td>29,748</td> <td>×0.8 約8割が都市住民(南郷区以外)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(特記事項)</p> <p>-</p>		H19	H20	H21	備考	総合情報館入場者数(総合案内室、展示スペース等)	41,586	36,989	37,186	計画年間利用人数:36,100人	計画に対する利用率	115.2%	102.5%	103.0%	/36,100人	のうち、都市住民(八戸市南郷区以外)の入場者数	33,268	29,591	29,748	×0.8 約8割が都市住民(南郷区以外)
	H19	H20	H21	備考																	
総合情報館入場者数(総合案内室、展示スペース等)	41,586	36,989	37,186	計画年間利用人数:36,100人																	
計画に対する利用率	115.2%	102.5%	103.0%	/36,100人																	
のうち、都市住民(八戸市南郷区以外)の入場者数	33,268	29,591	29,748	×0.8 約8割が都市住民(南郷区以外)																	

<p>事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>(1) 施設の管理状況</p> <p>ア) 管理体制 八戸市では、公の施設の管理・運営について、多様な団体が有するノウハウを活かすため、指定管理者制度を導入しており、本地区においては、きめ細やかな管理・運営が可能な「島守田園空間博物館運営協議会」を指定管理者に定め、管理費の縮減と住民サービスの向上に努めている。「島守田園空間博物館運営協議会」は、ホテル部会や島守館農園運営部会等の15の部会で構成され、協議会規約に基づき、年間予算や各種イベントなどの活動などを管理運営している。</p> <p>イ) 管理費用 八戸市は、平成29年度までに施設のイニシャルコスト(建設費用)の償還を完了する予定である。ランニングコスト(維持管理費用)については、「島守田園空間博物館運営協議会」の人件費や施設の水道光熱費、修繕費用などの指定管理料とイベント売上げや直売所の収益の一部で賄われている。県は、地域活動を支援する目的で、「青森県中山間地域ふるさと活性化基金」の助成を行っており、協議会は、</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 環境美化活動の一環として、花苗等の植栽 b) ホテルの生育 c) 施設PR用ののぼり旗や案内看板の設置 d) 地域の伝統芸能(えんぶり)鑑賞のためのバス借上げなどに活用している。 <p>ウ) チェック体制 八戸市は、管理状況について指定管理者から年4回定期的に報告書を提出させ、施設の利用状況や維持管理の実施状況を確認し、現地では施設、設備の劣化や破損状況を随時確認している。県では、島守田園空間博物館運営協議会総会等に参加し、イベントや各部会の活動、施設の利用状況などを把握し、指導助言を行っている。</p> <p>エ) 【管理状況】に関するアンケート結果では、「適切」「おおむね適切」との回答が46%(139人/300人)あった。</p>
<p>事業実施による環境の変化</p>	<p>(「環境影響への配慮」の効果発現状況(特に留意した配慮内容がある場合))</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ホテル水路は、片側を景観に配慮し空石積み護岸とし、反対側は手を加えず現況のまま残しホテルが生息可能な環境となるよう配慮した。 (2) 島守館農園の切土及び盛土部の法面は、緑化し自然環境に配慮した。 <p>(その他の環境の変化)</p> <p>前述「事業効果の発現状況 (2) 景観・環境が保全される効果」のとおり。</p>

<p>改善措置の必要性</p>	<p>(1) [改善点]に関するアンケート結果では、「改善点がある」と回答した人は19%あり、その主な内容は、あまり利用されていない施設は利用方法等を見直すべき、イベントが少ない、地域外にPRが必要などの意見である。</p> <p>(2) アンケート結果を受けて、項目ごとに八戸市及び島守田園空間博物館運営協議会が、取り組んでいる改善措置は次のとおりである。 利用方法の見直しが必要 ア) 一般住民の利用促進のため、ホームページをリニューアルし、最新情報の提供や参加者からの感想、要望等を情報発信 イ) 総合情報館内に視聴覚コーナーを設け、ビデオ等によりイベント及び伝統芸能を紹介(写真a) ウ) 施設に誘導するための案内板や施設入口への誘導線を設置(写真b、c) 運営方法に改善が必要 ア) 新たなイベントとして、「館のやかた」での伝統食「ほどもち」の体験学習会などを開催 イ) 現在実施している青葉湖(世増ダム湖)ウォークのコースに各施設巡回コースを新設 地区外にPRが必要 市庁舎、駅、その他公共施設などへのパンフレット等の配置(写真d)により情報発信を充実</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>a) 視聴覚コーナーの設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>b) 案内看板を設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>c) 誘導線を表示</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>d) 市関連施設にパンフレットを配置</p> </div> </div>
<p>再度の事後評価の必要性</p>	<p>上記の改善措置について現在適切に取り組まれていること、及び「事業効果の発現状況」にあるとおり、全体として事業目的は達成されていることから判断し、再度の事後評価は必要ないものとする。</p>
<p>今後に向けた留意点</p>	<p><u>〔同種事業の計画・調査の在り方〕</u> 本地区では、計画段階で完成後の管理運営に係る体制や経費の負担などについて不明確な点があったことから、計画調査時において将来を見据えた管理運営を明確に定めておくことが重要である。 なお、本事業は、本年度廃止されたところである。</p> <p><u>〔事業評価手法の見直し〕</u> アンケートの配布方法は無作為抽出による郵送で行ったが、回収率が3割程度の低い結果となったことから、単に郵送だけではなく町内会の会長を集めて説明会を開催し回収に協力をしてもらうなどの工夫が必要である。</p> <p><u>〔同種事業の内容・手法等の在り方〕</u> 本地区は、アンケートやワークショップ等による地域住民との共同作業の場を設け、施設の活用方法を検討するなど合意形成を図りながら計画を進めてきた。 地域住民が管理主体となる同種事業において施設の有効活用を図るためには、計画・調査段階のみならず、工事の実施や施設完成後の維持管理等の各段階において、アンケートやワークショップ等を通じ地域住民の声が反映される手法の導入が有効であるとする。</p>
<p>特記事項</p>	<p>島守田園空間博物館運営協議会設立までの経緯については別紙のとおり。</p>

運営協議会設立までの経緯とその成果について

1. 運営協議会設立までの経緯

(1)現状の把握と地域資源の掘り起こし

開催時期	内 容	備 考
H11年 7月	・田園空間博物館整備地方委員会設立 目 的:「島守盆地地区田園空間博物館基本計画」策定のための委員会を設立。 (地方委員は、地元委員5名と学識経験者等委員11名で構成。) ・第1回田園空間博物館整備地方委員会 内 容:田園空間博物館整備基本構想について具体化の検討。 (南郷村の地域資源をピックアップ、島守盆地田園空間博物館として 目指すべき方針等について各委員から提言。)	
9月	・田園空間整備事業地元説明会(事業内容等) 対 象:島守盆地内の区長 主 催:南郷村、県	
10月	・田園空間整備事業地元説明会(事業内容等) 対 象:島守盆地地域の住民 主 催:南郷村、県	地元参加者:35名
	・アンケート調査 対 象:南郷村全域 結 果:回収率63.7% 1,173戸/1,842戸 「地域特性の認識度」では、「自然が多い」「特産品が多い」など 「子供達に残したい宝物」では、「神社・仏閣」「伝統芸能」など 「復活させて残したいもの」では、「水車」「萱葺きの民家」など	
	・ワークショップ地元説明会(ワークショップとは何か。) 主 催:南郷村、県	
	・第1回ワークショップ テーマ:島守盆地地区の「お宝再発見」 内 容:1)調査範囲を決めてグループ毎に、地域を歩いてお宝を調査。 2)調査結果を基に、お宝マップを作成。	島守盆地地域の住 民(1区~7区)30 名参加
	・第2回ワークショップ テーマ:「お宝を子孫へ残すための提案づくり」お宝マップの作成 内 容:1)1回で見つけたお宝を、どのようにして子孫に残していくか検討。 2)お宝を子孫に残すための提案マップを作成。	島守盆地地域の住 民(1区~7区)30 名参加

(2)島守盆地地区田園空間博物館基本計画の検討及び承認

開催時期	内 容	備 考
H11年 12月	・施設整備に係る現地調査 内 容:ワークショップ、アンケート調査に基づき、現地調査を行い具体的な 整備内容を検討。	地元代表等より、ハ ード整備要望聞き 取り、現地調査
H12年 1月	・第3回ワークショップ テーマ:「ふるさと島守盆地の将来像づくり」 内 容:具体的な整備内容について意見交換 ・第2回田園空間博物館整備地方委員会 内 容:1)基本計画(案)の検討 2)ハード整備(案)の検討 3)管理運営方針(案)の検討(活動部会の設置など)	地元委員5名、島守 盆地地域の住民(1 区~7区)30名参加
2月	・第3回田園空間博物館整備地方委員会 内 容:基本計画の承認(施設整備計画、管理計画等)	

(3)島守田園空間博物館運営協議会の設立

開催時期	内 容	備 考
H12年 3月	・島守田園空間博物館運営協議会準備会発足 内 容:運営協議会の設立に向けて準備会を発足。 ・田園空間整備事業地元説明会 内 容:2地域に分けて説明会を行い、事業内容と地域住民の博物館活動に理 解を求めた。	村、県、自治会長、 地域住民代表 村、県、島守自治会 (1~7区)
5月	・島守田園空間博物館運営協議会設立準備会 内 容:運営協議会の設立に向けた打合せ。 ・田園空間博物館運営協議会設立総会 H12年5月29日設立。	村、県、自治会長、 地域住民代表 村、県、自治会長、 地域住民代表

2. これらの取組における成果

- (1) 地域住民の手で地域を盛り上げていこうという機運が醸成し、具体的な施設の実施設
計の検討会などに地域住民が積極的に参加するようになった。
- (2) 島守田園空間博物館の部会活動の取組みが、地域住民により主体的に行われるよう
になった。